

## ろうきん推進機構の取組

ろうきんには、他の金融機関にはない独自の組織があります。それが、「ろうきん推進機構」です。各労働組合の代表者で構成された自主組織で、労働組合が取組む労働者の福祉増進活動や、組合員に対して行う日常の世話役活動の中から出てきた様々な意見や要望などをろうきんとともに議論し、ろうきんの経営政策、商品やサービスに反映させる組織です。

東海ろうきんは、2020年度～2024年度の5か年を第9期中期経営計画期間として、同期間における生活応援運動5か年推進方針を推進機構とともに策定し活動を展開しています。

2020年度は長期ビジョンである「～伴(とも)に歩み 共(とも)に生きる～働く人たちの生涯に寄り添い続ける福祉金融機関」を実現するために「生活設計」「生活防衛」の基本取組として財形貯蓄・エース預金のスリーアップ運動、「生活改善」の取組として、アンケートの実施やクレスラセミナーの開催、「生涯生活設計支援」の取組として資産形成セミナーの開催を「ろうきん推進機構」の主たる役割として掲げ活動を展開しました。

今回も引き続き、推進機構のトップである東海運営推進会議の森議長に、議長としての抱負、推進運動と課題、推進機構とろうきんがめざすべき姿についてインタビューしました。



東海運営推進会議  
森 崇博 議長  
(三互労働組合 中央執行委員長)

### ◆ 東海運営推進会議

議長としての今年度の抱負をお聞かせください。——

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、推進機構の本来の役割をしっかりと果たすことができませんでした。しかし今年度は、昨年の反省を活かし「Withコロナの時代」であっても活動が停滞することなく、その時々でやれる最大限の取組を進めていきたいと思っています。特に「Withコロナの時代」を迎えるにあたり今一度、組合員の生活応援運動に力を入れて進めていきたいと考えます。

こうした不安定な時代だからこそ正しい金融知識を身に付け、資産形成について真剣に向き合っていくことが重要だと考えます。多くの会員において「預金をすることを習慣化し、将来的には資産を運用する」といったライフスタイルの構築をめざしていきます。

一方で、私たちはクレスラについて、あらためて認識を持つ必要があると感じています。収入の減少により安易に借りてしまう人や返済が滞ってしまう人、こうした組合員を1人でも多く早い段階で救い出し「生活防衛」「生活改善」に繋げていきたいと考えています。

### ◆ 推進運動を行うなかで課題と感じているものはありますか。——

いま、組合員の皆さんを取り巻く環境は大きく変わろうとしています。テレワークをはじめとする働き方の多様化やペーパーレス化など、これまでの「ろうきん運動」では展開が難しくなると考えています。

特に「知らせる活動」をいかに工夫し推進していくのか、各会員が真剣に向き合わなければならない課題であると認識する必要があります。

もう1点の課題は「資産運用をいかに進めていくか」だと考えています。私たちは預金をすることに対して迷いはありませんが、資産を運用するということに対しては何らかの抵抗があります。金融に関する教育を受けていないことが要因だとは思いますが、そのためにも資産形成のセミナーを繰り返し行うことで知識や経験を積み、次の世代に託していくことが必要だと考えています。



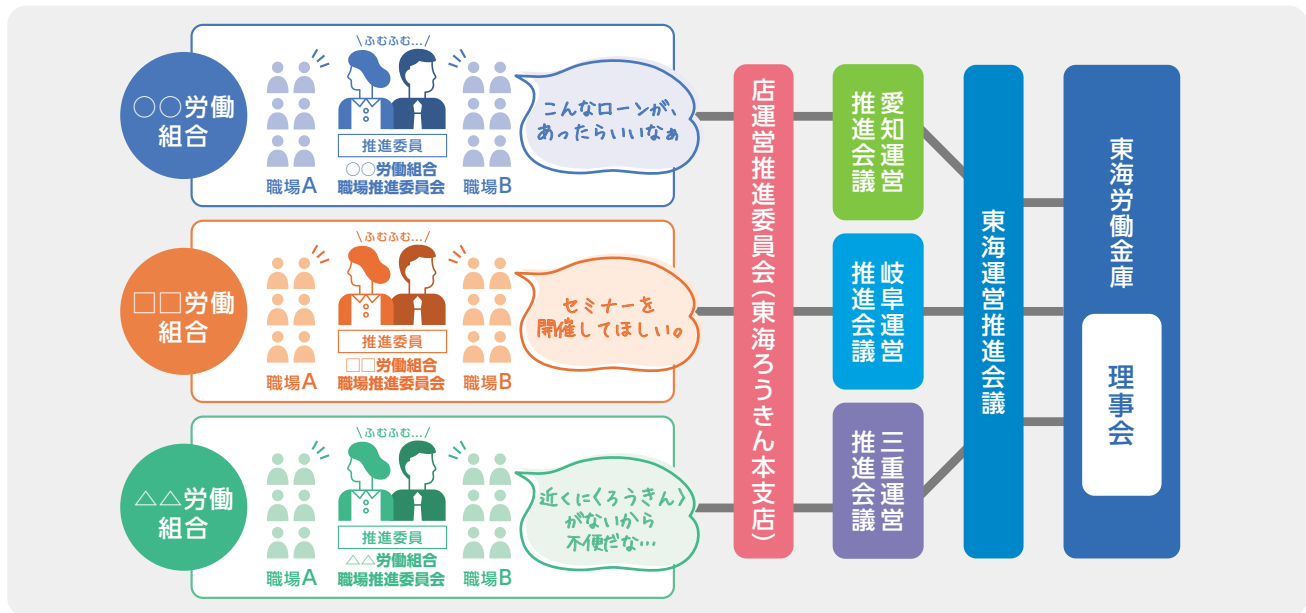
### ◆ 推進機構と「ろうきん」がめざすべき姿をお聞かせください。——

資産形成を積極的に取組んでいくためにも、ろうきんの強みである「生活設計」「生活改善」「生活防衛」の3本柱を軸に活動を進めていきたいと思っています。その際、推進機構にとって最も大切な活動となるのが「知らせる活動」になります。

組合員の皆さんに、「どうすればより多くの情報をタイムリーに提供できるのか」各会員と営業担当の知恵と工夫が必要となってくると思います。

また、そうした知恵と工夫を各会員で共有し全体的に底上げができる仕組みを推進機構とろうきんが一体となり、つくっていききたいと思っています。

## ●ろうきん推進機構の仕組み



## ●全店運営推進委員長会議

全店の運営推進委員長が一堂に会する会議です。ろうきん運動推進アドバイザーによる他のろうきん推進機構の取組紹介や、タイムリーな話題を提供いただく外部講師による講演などで構成されています。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より開催中止となりました。

### ●【ろうきん運動推進アドバイザー】とは

ろうきん運動推進アドバイザーは、全国の各ろうきんで推薦を受けた方が選任されており、ろうきん業態の取組む経営方針・営業推進方針に基づき、自らの経験や自金庫の推進機構の取組を活かし、ろうきん運動を推進機構、会員組合員へ、普及・推進することを目的とし活動しています。

①推進機構・会員組合員へのろうきん運動の普及・推進、②会員・組合員の立場に立った、労金職員の営業力強化に向けた動機づけと意識づけ、③学校教育や消費者教育などを通じた社会的役割の発揮が主な役割です。

東海運営推進会議からは、森議長・内木副議長（東海西濃運輸労働組合 書記長）・川合副議長（津市職員組合 執行委員長）の3名が選任されています。



左から内木副議長・森議長・川合副議長

## ●東海ろうきん会員研究集会

年に1回開催される集会で、毎年約200名のろうきん運動に関わる皆さまに参加いただいています。

集会は外部講師による講演と分散会で構成され、分散会でいただいたご意見は、分散会報告として店運営推進委員会に還元し、その後の推進活動に活かしています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より一堂に会しての開催ではなく、店運営推進委員会単位での分散会に変更して開催しました。分散会のテーマはコロナ禍における「知らせる活動」と「ろうきんの商品・サービス」でした。

## ●店運営推進委員会表彰

支店・地域のろうきん推進活動の共有化を図るとともにさらなる活動の輪を広げ、新たな活動を推進していくことを狙いとしています。推進活動を具体的に進める店運営推進委員会の結束を固め、推進活動と理念を継承し、活性化を図ることを目的とした表彰制度です。

2020年度は、各地区より【優秀賞】と【敢闘賞】を選定後、8月の東海運営推進会議で確定し、第4回の各地区推進会議で表彰を行いました。